

授業科目名： プロダクトデザイン		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：中山 順 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項		教科に関する専門的事項 ・材料加工（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 日常生活で使われるインテリア関連用品、家庭電気製品等の工業製品のデザイン技法を習得します。				
授業の概要 生活用品を人にとってどうすれば豊かで快適に暮らせるのかを具体的に示すことがプロダクトデザインです。そして、プロダクトデザインは、材料加工により工業生産できる生活用品を提案します。本授業では、日常生活で求められ使いやすく魅力的な生活用品の立案や、その具体化の手法について、マーカーやパステル等を活用した手描きのスケッチ、スタイロフォームや粘土による手作りの模型制作の実践によって、工業製品の材料加工を踏まえた造形のためのデザイン技法を習得します。				
授業計画 第1回 プロダクトデザインの基本手法 第2回 「つかむ」（1）ドアハンドルのイメージ設計 第3回 「つかむ」（2）ドアハンドルの模型制作 第4回 「座る」（1）椅子等のコンセプト設計 第5回 「座る」（2）椅子等のイメージ設計 第6回 「座る」（3）椅子等の詳細設計 第7回 「座る」（4）椅子等の模型制作 第8回 「入浴する」（1）浴室のコンセプト設計 第9回 「入浴する」（2）浴室のイメージ設計 第10回 「入浴する」（3）浴室の詳細設計 第11回 「入浴する」（4）浴室の模型制作 第12回 自由テーマ（1）コンセプト設計 第13回 自由テーマ（2）イメージ設計 第14回 自由テーマ（3）模型制作 第15回 プレゼンによるまとめ				
テキスト 画用紙やスチレンボード等を必要とするが、授業の中で指示する。				
参考書・参考資料等 授業の中で必要に応じて紹介する。				
学生に対する評価				

受講態度（20%）、授業中の練習課題（20%）、演習課題の最終成果物（60%）によって総合的に評価する。

授業科目名： 構造力学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：吉永 規夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・材料加工（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 構造力学の基礎となる静定構造物について基本的な力の流れが理解できる。			
授業の概要 構造物に働く力についての基本的な知識を習得し、構造物を合理的に設計する上で必要な事項を学ぶ。 特に、静定構造物に外力が働いた時に、構造物の各部分および断面に生じる力、力の流れについて学ぶ。			
授業計画 第1回 建築物に働く力とは 第2回 力の性質－力の合成とつりあい 第3回 構造物の静定と安定 第4回 断面に流れる力－軸力、せん断力と曲げモーメント 第5回 単純梁1－集中荷重 第6回 単純梁2－分布荷重 第7回 片持ち梁－集中荷重と分布荷重 第8回 静定ラーメン1－集中荷重 第9回 静定ラーメン2－分布荷重 第10回 静定ラーメン3－ヒンジのあるラーメン 第11回 静定トラス1－節点法 第12回 静定トラス2－切断法 第13回 断面の係数－断面一次モーメント、断面二次モーメント 第14回 曲げ応力度、せん断応力度 第15回 断面に流れる力－応力度 第16回 試験			
テキスト 図解レクチャー 構造力学 静定・不静定構造を学ぶ 学芸出版社 ISBN：9784761525231 授業中にプリントを配布する。			
参考書・参考資料等 授業中に示すことがある。			
学生に対する評価 定期試験：70%（出題範囲は授業中に示す。）			

小テスト：30%（基本的に毎回小テストを行う。）

授業科目名： 建築図学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：陳 建中 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・材料加工（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 建築・インテリアを学ぶうえで重要な透視図の原理と用語を理解し、立体図形を正しく表現するための基礎知識を習得する。さらに、習得した知識を作品のプレゼンテーションに応用できる能力を身につけることを目標とする。			
授業の概要 立体図形である建築・インテリア作品の図面は一般的に二次元情報として表現される。本演習では、そのような情報を立体図形として正しく読み取るために必要な知識を身につけ、模型製作などの課題演習を通じて実践への足がかりとなる技能を習得する。			
授業計画 第1回 ガイダンス 図面の見方、製図の基本 第2回 模型製作の基本 第3回 製図の基礎 第4回 屋根伏せ図の書き方 第5回 建築図面の練習（平面図） 第6回 建築図面の練習（外構図） 第7回 建築図面の練習（A-A' 断面図） 第8回 建築図面の練習（B-B' 断面図） 第9回 建築図面の練習（立面図） 第10回 建築図面の練習（インキング） 第11回 透視図の練習 第12回 フィッシャー邸の模型製作 第13回 切妻屋根木造住宅の断面練習 第14回 プレゼンテーションの手法 第15回 制作発表			
テキスト 製図道具一式 『やさしく学ぶ建築製図[最新版]』・松下 希和（著），長沖 充（著），照内 創（著）・エクスナレッジ ISBN 978-4767823720			
参考書・参考資料等 『建築デザイン製図』・松本 正富 編著，政木 哲也，半海 宏一，鯉坂 誠之 著・学芸出版社			

ISBN978-4-761-52691-7

『建築家の自邸に学ぶ設計製図』・水谷俊博, 水谷玲子 著・彰国社 ISBN978-4-395-32123-0

学生に対する評価

提出課題 100% 但し、すべての課題の提出が評価の必須条件である。

授業科目名： 建築設計演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：林田 大作 前川 歩 陳 建中 吉永 規夫 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・材料加工（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 建築製図法の基礎や簡単な住宅の設計手法、手順が理解できる。			
授業の概要 住環境に関する諸科目で学習した基礎知識をもとに、設計(デザイン)内容を図面として表現するための製図の基礎を学ぶ。週末住宅や戸建住宅の設計、透視図や模型の作成を通じて、基本的な建築設計図の描き方とプレゼンテーションを学ぶ。また、空間の捉え方の基本を学ぶ。			
授業計画 第1回 課題説明・・・第1課題「週末住宅」 週末を過ごす小規模の隠れ家を計画し、平面的な広がり、空間の高さ、外部空間とのつながりなどについて考える。 第2回 エスキースチェック 1（計画の概要・基本方針） 第3回 エスキースチェック 2（主に平面計画） 第4回 エスキースチェック 3（主に立面・断面計画） 第5回 エスキースチェック 4（イメージ模型や各種エスキースの最終確認） 第6回 作図・模型作成（適宜、質疑応答を行う） 第7回 提出・訂正指示 第8回 課題説明・・・第2課題「住宅地の戸建住宅」 大学周辺の郊外住宅地に建つ4人家族が住む住宅の設計を通して、住まいに必要な空間のつながりや構成を学ぶ。 第9回 エスキースチェック 1（計画の概要・基本方針） 第10回 エスキースチェック 2（主に平面計画） 第11回 エスキースチェック 3（主に立面・断面計画） 第12回 エスキースチェック 4（イメージ模型や各種エスキースの最終確認） 第13回 作図・模型作成（適宜、質疑応答を行う） 第14回 提出・訂正指示 第15回 まとめと講評（両課題に対して行う）			
テキスト 製図道具一式 課題ごとにプリントを配布する。			

参考書・参考資料等

『建築設計演習基礎編 建築デザインの製図法から簡単な設計まで』・彰国社 ISBN4-395-20001-X

『第3版 コンパクト建築設計資料集成』・日本建築学会編 ISBN978-4-621-07509-8

『建築製図基本の基本』・櫻井良明著・学芸出版社 ISBN978-4-7615-3189-8

学生に対する評価

図面、模型等の提出物：100% 一度でも期限内に課題を提出しなかった場合、不合格とする。

授業科目名： 建築設計演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：林田 大作 前川 歩 陳 建中 吉永 規夫 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・材料加工（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ ゾーニングを伴う住宅や小規模な建築の設計能力と、模型やパースなどのプレゼンテーション技法を修得する。			
授業の概要 建築設計演習Ⅰに引きつづき、複数のゾーン（二世帯等）を持つ住宅や小規模な建築について、各ゾーンの関係性や動線等を考慮した設計能力を養う。また、より高度な意匠設計図面の作図法や、透視図・模型等の立体的プレゼンテーション技法を学ぶ。			
授業計画 第1回 課題説明・・・第1課題「多世代住宅」 3世代2世帯住宅を設計し、住宅内での個々の人間の関わり方や家族間でのプライバシーの問題について考える。 第2回 エスキースチェック1（計画の概要・基本方針） 第3回 エスキースチェック2（主に平面計画） 第4回 エスキースチェック3（主に立面・断面計画） 第5回 エスキースチェック4（イメージ模型や各種エスキースの最終確認） 第6回 作図・模型作成（適宜、質疑応答を行う） 第7回 提出・訂正指示 第8回 課題説明・・・第2課題「こども園」 郊外住宅地に建つこども園の設計を通して、複数の機能（幼児教育・保育・地域の子育て支援、児童図書館）を持つ建物の空間構成の計画法や使用者（幼児）に適正な寸法感覚を身につける。 第9回 エスキースチェック1（計画の概要・基本方針） 第10回 エスキースチェック2（主に平面計画） 第11回 エスキースチェック3（主に立面・断面計画） 第12回 エスキースチェック4（イメージ模型や各種エスキースの最終確認） 第13回 作図・模型作成（適宜、質疑応答を行う） 第14回 提出・訂正指示 第15回 まとめと講評（両課題に対して行う）			
テキスト			

製図道具一式

課題ごとにプリントを配布する。

参考書・参考資料等

『建築設計演習基礎編 建築デザインの製図法から簡単な設計まで』・彰国社 ISBN4-395-20001-X

『第3版 コンパクト建築設計資料集成』・日本建築学会編 ISBN978-4-621-07509-8

『建築製図基本の基本』・櫻井良明著・学芸出版社 ISBN978-4-7615-3189-8

学生に対する評価

図面、模型等の提出物：100% 一度でも期限内に課題を提出しなかった場合、不合格とする。

授業科目名： 建築設計演習Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：林田 大作 前川 歩 陳 建中 吉永 規夫 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・材料加工（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 小規模な木造建築の構造計画能力とその図面表現、および、中規模建築の設計能力やプレゼンテーション技術を習得する。			
授業の概要 木造住宅の設計を通して、木造在来工法の架構方法やその断面算定・軸組計算能力を養う。更には、前記を通して、建築一般についての架構の基本を理解する。また建築を、使用者・立地・景観・気候など諸条件や芸術的価値などから複眼的に考え、理想的な案に収束させる能力を養う。			
授業計画 第1回 課題説明・・・第1課題「入院病床を有する診療所」町中に立地する小規模な診療所を計画する。医療従事者、外来患者、入院患者、見舞い客等の動線が錯綜しないように整理し、立場の違う関係者それぞれに適した快適な空間を設計する。 第2回 エスキースチェック1（計画の概要・基本方針） 第3回 エスキースチェック2（主に平面計画） 第4回 エスキースチェック3（主に立面・断面計画） 第5回 エスキースチェック4（イメージ模型や各種エスキースの最終確認） 第6回 作図・模型作成（適宜、質疑応答を行う） 第7回 提出・訂正指示 第8回 課題説明・・・第1課題「木造在来工法の構造設計」各自簡単な木造住宅を設計し、その住宅の構造設計（軸組計画）を行い図面化する。 第9回 エスキースチェック1（意匠設計） 第10回 エスキースチェック2（意匠図完成確認） 第11回 エスキースチェック3（各階床組・小屋組の検討） 第12回 エスキースチェック4（横架材断面算定・壁量の算定） 第13回 作図・模型作成（適宜、質疑応答を行う） 第14回 提出・講評 第15回 講評（主に第1課題に対して行う）			
テキスト			

製図道具一式

製図道具一式

『初めての建築製図』・<建築のテキスト>編集委員会編 ISBN978-4-7615-2398-5

課題ごとにプリントを配布する。

参考書・参考資料等

『第3版 コンパクト建築設計資料集成』・日本建築学会編 ISBN978-4-621-07509-8

『建築設計演習基礎編 建築デザインの製図法から簡単な設計まで』・彰国社 ISBN4-395-20001-X

学生に対する評価

図面、模型等の提出物：100% 一度でも期限内に課題を提出しなかった場合、不合格とする。

授業科目名： 建築設計演習Ⅳ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：林田 大作 前川 歩 陳 建中 吉永 規夫
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・材料加工（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 一団地の住宅や公共建築等、複雑なプログラムを伴う各種建築の設計能力やプレゼンテーション技術を習得する。			
授業の概要 集合住宅や公共建築を課題として、建築・空間に対する考え方・発想・展開を学ぶ。建築物単体にとどまらず、建築相互の関係性や周囲の環境をも考慮した計画や設計の手法、および、プレゼンテーションの技法についても学ぶ。			
授業計画 第1回 課題説明・・・第1課題「中層集合住宅」 様々な世帯、様々なライフスタイルの人々が集住するため、多様なタイプの住戸を備えた共同住宅を計画する。敷地内に複数の建築を計画する場合の計画手法についても学ぶ。 第2回 エスキースチェック 1（計画の概要・基本方針） 第3回 エスキースチェック 2（主に配置計画） 第4回 エスキースチェック 3（主に住戸計画） 第5回 エスキースチェック 4（主に全体平面計画） 第6回 エスキースチェック 5（主に立面・断面計画） 第7回 エスキースチェック 6（イメージ模型や各種エスキースの最終確認） 第8回 作図・模型作成（適宜、質疑応答を行う） 第9回 提出・訂正指示 第10回 課題説明・・・第2課題「公共建築」 設計演習Ⅰ～Ⅳの集大成として、複雑なプログラムの充足と芸術としての建築の双方の観点から考えた公共建築を設計する。建築の形と内部空間、内部空間と外部空間の関わりを考慮しつつ自由な造形の建築を考える。更に、それをもたせる構造システムをも検討する。 第11回 エスキースチェック 1（基本構想） 第12回 エスキースチェック 2（主に平面・立面・断面計画） 第13回 エスキースチェック 3（主に展示計画） 第14回 提出・訂正指示			

第15回 まとめと講評（両課題に対して行う）

テキスト

製図道具一式

『初めての建築製図』・<建築のテキスト>編集委員会編 ISBN978-4-7615-2398-5

課題ごとにプリントを配布する。

参考書・参考資料等

『第3版 コンパクト建築設計資料集成』・日本建築学会編 ISBN978-4-621-07509-8

『建築設計演習基礎編 建築デザインの製図法から簡単な設計まで』・彰国社 ISBN4-395-20001-X

学生に対する評価

図面、模型等の提出物：100% 一度でも期限内に課題を提出しなかった場合、不合格とする。

授業科目名： インテリアデザイン	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：林田 大作 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・材料加工（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ (1) 面白さや楽しさを感じながらインテリアデザインの基礎知識を習得している。 (2) 「インテリアデザインとは何か」という基本事項を知ることができる。			
授業の概要 インテリアデザインとは何か。欧米と比較して、日本のインテリアデザインの歴史は浅いと言われるが、それはなぜか。本授業では、生活者の立場からインテリアデザインの基礎知識をわかりやすく解説します。使用教材を中心に講義しますが、ほぼ毎回、補助教材としてプリントを配布します。また、習得度を確認するため、簡単な課題にも取り組みます。			
授業計画 第1回 オリエンテーション：インテリアデザインを学ぶにあたって 第2回 建築・インテリアの歴史と様式 第3回 近現代の建築・インテリア 第4回 インテリアデザインと家具の歴史 第5回 インテリアの原型（居心地の良い場所・居場所） 第6回 インテリアの基本寸法 第7回 インテリアと空間心理 第8回 インテリアと安全性 第9回 生活環境の把握から住宅設計へ 第10回 住宅設計の実例と設計図の描き方 第11回 施工順序と外構・植栽計画 第12回 室内環境とデザイン 第13回 建築・インテリアの構造と構法 第14回 建築・インテリアの下地と仕上げ 第15回 開口部と建具 第16回 定期試験			
テキスト 『建築設計学Ⅰ 住宅の設計を学ぶ』、学芸出版社			
参考書・参考資料等 『名作住宅で学ぶ建築製図』、藤木庸介ほか著、学芸出版社、2008 年 『図解すまいの寸法・計画事典』、岩井一幸・奥田宗幸著、彰国社、2004 年			

『インテリアデザインー計画基礎から空間設計まで一』、中野明編著、建帛社、1998 年

『インテリア設計士テキスト学科編』、日本インテリア設計士協会

学生に対する評価

- 1.定期試験：60%（授業で学習した内容全体を出題範囲とする）
- 2.提出物：30%（毎回授業の最後に理解度を問うコメントシートなどを提出させる）
- 3.授業に対する姿勢：10%（授業中の質問や応答、学生同士の議論など授業への参加度と貢献度を評価する。なお、私語や無断退室など受講上望ましくない行為に対してはマイナス評価を与える。）

授業科目名： インテリアデザイン演習A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：林田 大作 前川 歩 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・材料加工（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ (1) 面白さや楽しさを感じながらインテリアデザインの設計技術を習得している。 (2) インテリアデザインの基本から応用まで実践的な設計技術を身につけている。			
授業の概要 インテリアデザインの基本的な手法を学び、設計の応用力を身につけます。			
授業計画 第 1 回 オリエンテーション インテリアデザイン計画の進め方と設計図の描き方 第 2 回 平行透視図法による 1 消点透視図（パース）の描き方・家具装備一覧表の描き方 第 3 回 断面展開図の描き方・仕上表の描き方・スタディ模型の作り方 第 4 回 第一課題「名作住宅のリノベーション計画-1」説明 第 5 回 基本計画（使用者の設定・コンセプトの設定・1/50 スタディ模型作成） 第 6 回 実施設計（1/100 配置図作成・1/100 平面スケッチ作成） 第 7 回 実施設計（1/50 平面図作成・1/50 立面図作成・1/50 断面展開図作成） 第 8 回 実施設計（家具装備一覧表作成・仕上表作成・パース作成） 第 9 回 実施設計（全図面チェックバック・模型の作成） 第 10 回 第一課題提出 第二課題「名作住宅のリノベーション計画-2」説明 第 11 回 基本計画（使用者の設定・コンセプトの設定・1/50 スタディ模型作成） 第 12 回 実施設計（1/100 配置図作成・1/100 平面スケッチ作成） 第 13 回 実施設計（1/50 平面図作成・1/50 立面図作成・1/50 断面展開図作成） 第 14 回 実施設計（家具装備一覧表作成・仕上表作成・パース作成・模型作成） 第 15 回 第二課題提出 第 16 回 講評会			
テキスト 『名作住宅で学ぶ建築製図』、藤木庸介ほか著、学芸出版社、2008 年			
参考書・参考資料等 『建築設計学Ⅰ 住宅の設計を学ぶ』、学芸出版社 『図解すまいの寸法・計画事典』、岩井一幸・奥田宗幸著、彰国社、2004 年 『新版新しい建築製図』、「新版・新しい建築製図」編集委員会編、学芸出版社、1991 年 『インテリアデザインー計画基礎から空間設計までー』、中野明編著、建帛社、1998 年			

『インテリア設計士テキスト実技編』、日本インテリア設計士協会
『インテリア設計士テキスト学科編』、日本インテリア設計士協会
『インテリア設計士テキスト（実技編）』、日本インテリア設計士協会

学生に対する評価

1. 課題作品：80%
2. 授業に対する姿勢：20%（授業中の質問や応答、学生同士の議論など授業への参加度と貢献度を評価する。なお、私語や無断退室など受講上望ましくない行為に対してはマイナス評価を与える。）

授業科目名： インテリアデザイン演習 B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：林田 大作 前川 歩 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・材料加工（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 空間の分析能力とそれに基づいたリノベーション、改修手法を習得している。既存空間のもつ価値を発展させ、新たな空間をデザインする能力を養っている。			
授業の概要 まず普通の空間である団地空間を対象に、現代のライフスタイルに合わせたリノベーションを行います。次に都市における集合住宅の原型のひとつといえる長屋のリノベーションを行います。インテリアデザインの基礎ともいえる既存空間の分析能力とその空間の特性を活かしたデザインの方法について学びます。			
授業計画 第1回 設計課題1「51Cのリノベーション」課題説明 第2回 設計課題1 空間分析、コンセプトチェック 第3回 設計課題1 エスキス 第4回 設計課題1 エスキス、平面図、展開図の作成 第5回 設計課題1 平面図、展開図の作成、模型の作成 第6回 設計課題1 プレゼンテーションボードの作成 第7回 設計課題1 講評会 第8回 設計課題2「長屋のリノベーション」課題説明 第9回 設計課題2 空間分析、コンセプトチェック 第10回 設計課題2 エスキス 第11回 設計課題2 エスキス、平面図、展開図の作成 第12回 設計課題2 平面図、展開図の作成 第13回 設計課題2 パースの作成、模型の作成 第14回 設計課題2 プレゼンテーションボードの作成 第15回 設計課題2 講評会			
テキスト 授業資料を適宜配布			
参考書・参考資料等 授業において適宜指示する。			
学生に対する評価			

課題作品 70%

プレゼンテーション 20%

授業態度 10%

授業科目名： インテリアデザイン演習C	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：林田 大作 前川 歩 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・材料加工（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ (1) 面白さや楽しさを感じながら、インテリアデザイン及びインテリアコーディネートのプレゼンテーションを習得している。 (2) 実践的な課題を通して、インテリアデザイン及びインテリアコーディネートの計画技法と設計技術を身につけている。			
授業の概要 実践的な課題を通してインテリアデザイン及びインテリアコーディネートを学び、図面表現の技法と図面による検討（配置図・平面図・立面図・断面展開図・家具装備一覧表・仕上表・1 消点透視図（パース）・アイソメ図・アクソメ図・三面図などによる検討）、模型制作、プレゼンテーションなどのインテリア設計の応用力を身につけます。 第 1・2 課題ともに、一級建築士・二級建築士・木造建築士・インテリアコーディネーター・インテリアプランナーなどの設計製図試験に合格するレベルの設計製図技法の修得を目指します。 これらの課題を通して、「建築設計とインテリアデザインの関係」「インテリアデザインとは何か」を理解しながら、インテリアデザイン及びインテリアコーディネートの計画技法、設計技術、検討の方法、図面・模型によるプレゼンテーション技術を身につけます。			

授業計画

- 第1回 オリエンテーション インテリアデザイン及びインテリアコーディネートが進め方
- 第2回 平行透視図法による1消点透視図（パース）・アイソメ図・アクソメ図の描き方
- 第3回 造り付け家具図と三面図の描き方・構造形式とインテリアデザイン
- 第4回 第一課題「S造シェアオフィスの計画」説明
- 第5回 基本計画（使用者の設定・コンセプトの設定・1/200 スタディ模型作成）
- 第6回 実施設計（1/200 平面図作成・1/200 立面図作成・1/200 断面展開図作成）
- 第7回 実施設計（パース・アクソメ図・アイソメ図の作成）
- 第8回 実施設計（1/200 配置図作成・家具装備一覧表作成・仕上表作成）
- 第9回 実施設計（全図面チェックバック・模型の作成）
- 第10回 第一課題提出 第二課題「RC造メディアセンターの計画」説明
- 第11回 基本計画（使用者の設定・コンセプトの設定・1/200 スタディ模型作成）
- 第12回 実施設計（1/200 平面図作成・1/200 立面図作成・1/200 断面展開図作成）
- 第13回 実施設計（パース・アクソメ図・アイソメ図の作成）
- 第14回 実施設計（1/200 配置図作成・家具装備一覧表作成・仕上表作成・模型の作成）
- 第15回 第二課題提出
- 第16回 講評会

テキスト

『新版新しい建築製図』、『新版・新しい建築製図』編集委員会編、学芸出版社、1991年

参考書・参考資料等

- 『建築設計学Ⅰ 住宅の設計を学ぶ』、学芸出版社
- 『名作住宅で学ぶ建築製図』、藤木庸介ほか著、学芸出版社、2008年
- 『図解すまいの寸法・計画事典』、岩井一幸・奥田宗幸著、彰国社、2004年
- 『インテリアデザイナー計画基礎から空間設計まで一』、中野明編著、建帛社、1998年
- 『インテリア設計士テキスト（学科編）』、日本インテリア設計士協会
- 『インテリア設計士テキスト（実技編）』、日本インテリア設計士協会
- 『はじめてのインテリア製図 合格する図面の描き方』、星野智子著、ハウジングエージェンシー、2003年
- 『室内設計テキスト（造作ディテール標準図集）』、日本インテリア設計士協会
- 『家具設計テキスト（家具のデザインと設計）』、日本インテリア設計士協会
- 『工作本位 建築の造作図集』、玉置豊次郎監修・中原靖夫著、オーム社、1988年

学生に対する評価

1. 課題作品・実践問題：80%
2. 授業に対する姿勢：20%（授業中の質問や応答、学生同士の議論など授業への参加度と貢献度を評価する。なお、私語や無断退室など受講上望ましくない行為に対してはマイナス評価を与える。）

授業科目名： インテリアデザイン演習 D	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：林田 大作 前川 歩
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・材料加工（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
歴史的建造物の空間的価値を読み解くことができ、守るべき価値と変えるべき部分を認識しながら新たな空間デザインを行える。既存空間に呼応した内部仕上げ、インテリアエレメントの選択ができる。			
授業の概要			
歴史的な価値を有した建築空間を対象に、そのリノベーション、コンバージョンを通じて、インテリアデザインを実施します。歴史的建造物がもっている歴史的価値や空間的価値を活かし、その再生のためのデザインの方法を学びます。			
授業計画			
第 1 回 設計課題 1 「町家のリノベーション」 課題説明			
第 2 回 設計課題 1 既存模型作成、歴史的価値・空間分析			
第 3 回 設計課題 1 コンセプト、基本方針、建築計画エスキス			
第 4 回 設計課題 1 建築計画エスキス、インテリア計画エスキス			
第 5 回 設計課題 1 インテリア計画エスキス			
第 6 回 設計課題 1 プレゼンテーションボードの作成			
第 7 回 設計課題 1 講評会			
設計課題 2 「歴史的建造物のコンバージョン」 課題説明			
第 8 回 設計課題 2 既存模型作成、歴史的価値・空間分析			
第 9 回 設計課題 2 コンセプト、計画方針、建築計画エスキス			
第 10 回 設計課題 2 建築計画エスキス			
第 11 回 設計課題 2 建築計画エスキス、インテリア計画エスキス			
第 12 回 設計課題 2 インテリア計画エスキス			
第 13 回 設計課題 2 インテリア計画エスキス、プレゼンテーションボードの作成			
第 14 回 設計課題 2 プレゼンテーションボードの作成			
第 15 回 設計課題 2 講評会			
テキスト			
授業資料を適宜配布			
参考書・参考資料等			
授業において適宜指示する。			
学生に対する評価			

課題作品 70%

プレゼンテーション 20%

授業態度 10%

授業科目名： 建築設備学演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：橋本 頼幸 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・機械・電気（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 建築設備に関する基礎的な知識を身につける。			
授業の概要 「建築設備」は建築物において快適な空間をつくり出す大切な要素である。本講義では建築設計者として知っておくべき「建築設備」を学ぶ。技術発展の歴史と近未来的な課題、解決に対するアプローチもあわせて習得することを目指す。関連する法令・設備機材・設備方式・建物との関わりなどについても学ぶ。演習課題も実施する。			
授業計画 第1回 ガイダンス、建築設備概論、エネルギーに関する社会的な課題 第2回 給排水衛生設備-1 給排水衛生設備とは、給水設備、安全を維持するための仕組み・ルールについて 第3回 給排水衛生設備-2 給湯設備、ガス設備、各種安全装置について 第4回 給排水衛生設備-3 排水・通気設備、排水処理設備、衛生状態を確保する技術 第5回 給排水衛生設備-4 衛生器具設備、消火設備 第6回 給排水衛生設備-5 給排水衛生設備まとめ、安全と衛生を維持する工夫 第7回 空気調和設備-1 空気調和設備とは、空気調和と室内環境、空気の状態を知る、熱の原理 第8回 空気調和設備-2 空調負荷の考え方 第9回 空気調和設備-3 熱源・熱搬送設備と機器部材、冷暖房の仕組み 第10回 空気調和設備-4 空気調和方式の種類・特徴と設備計画、技術評価とその歴史的変化、今後の課題とその解決について 第11回 空気調和設備-5 換気設備、騒音 第12回 空気調和設備-6 排煙設備、自動制御設備、空気調和設備まとめ 第13回 電気設備-1 電気設備とは、受変電・幹線設備、動力設備、自家発電・蓄電池設備、安定した供給のために工夫している点 第14回 電気設備-2 照明・コンセント設備、情報・通信設備、防災設備、各種安全装置について 第15回 電気設備-3 搬送設備、全体まとめ・小テスト			
テキスト (1) 初学者の建築講座 建築設備 第三版・大塚雅之 著・(市ヶ谷出版社)・ISBN 978-4-87071-023-8 (2) 講義資料を適宜配布する。			
参考書・参考資料等			

(1)建築関係法令集 法令編 平成 31 年版・総合資格学院 編集・(総合資格) 及び 同 告示編
又は 上記同等の法令集。(例：前期講義「建築法規」の使用教材など。インターネットでの法文検索も
可)

(2)前期講義「建築環境工学」の使用教材

(3)その他、講義中に示す。

学生に対する評価

(1)小テスト：40%（最終 15 回で実施する小テスト・建築設備に関する内容全般を出題範囲とする。）

(2)授業中の課題：40%（図面・計算課題）

(3)毎回の出席課題：20%（講義への真剣度、提出物・復習状況などを総合して評価する。）

授業科目名： 機械入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：世良啓太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・機械・電気（実習を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ ①機械の動きを決定する基本的な機構について理解している。 ②機構を構成する要素の組み合わせと運動原理を理解している。 ③身近な機械がどのようなしくみで動いているか理解している。			
授業の概要 本科目では、機構（メカニズム）に関する学習内容を通して、機構が用いられている身近な機械の動きのしくみについて理解を深めていきます。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 「機械」と「機構」の概要 第2回 機械の歴史的な変遷 第3回 手動発電ライトの分解 第4回 2足歩行ロボットの分解 第5回 機素と対偶 第6回 歯車機構の基礎 第7回 歯車列の計算1（ピッチ、モジュール） 第8回 歯車列の計算2（運動方向、回転速度） 第9回 歯車列の計算3（2段歯車列） 第10回 歯車列の計算の演習（回転力を含む） 第11回 リンク機構の基礎 第12回 リンク機構の解析 第13回 3Dモデリング 第14回 3Dプリンティングの基礎①（仕組み） 第15回 3Dプリンティングの基礎②（操作）			
テキスト 必要に応じて資料を配布する。参考図書について適時、講義の中で紹介する			
参考書・参考資料等			

特になし
学生に対する評価 授業内テスト 40% レポート 40% 3D モデル演習 20%

授業科目名： 栽培学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：箕作 和彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・生物育成		
授業の到達目標及びテーマ 学校園における栽培教育の効果がわかる。また、植物栽培に必要な基礎知識を理解している。さらに、植物栽培と自然環境との関係を理解している。			
授業の概要 栽培技術、栽培環境および植物生理を理解して、植物栽培の基礎について習得させる。また、自然環境と植物栽培のかかわりについて説明する。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 学校園と栽培 第3回 植物の構造と成長 第4回 種子繁殖 第5回 栄養繁殖 第6回 土と肥料 第7回 栽培管理 第8回 中間試験 第9回 作物の栽培 第10回 野菜の栽培 第11回 花卉の栽培 第12回 栽培環境 第13回 土壌環境 第14回 生物環境 第15回 まとめ 第16回 試験			
テキスト なし、適宜資料を配布します。			
参考書・参考資料等 参考書：「学校園の栽培便利帳」 日本農業教育学会編 農文協 1996			
学生に対する評価 試験にて、授業内容の理解度について到達目標を基準に評価します。また、授業における意見等から			

授業の取組みを評価します。試験（評価割合：80％）、授業の取組み（評価割合：20％）

授業科目名： 数理・データサイエンス	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：藤井 克哉 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・情報とコンピュータ		
授業の到達目標及びテーマ Excel 内の様々な機能を用いて、各種データの使い方、データ分析の統計に関する基本的な知識を習得できる。			
授業の概要 情報処理演習で学んだ内容をもとに、Excel の持つ機能や統計学を扱い、専門科目や卒業研究などに生かせる内容とする。 また、実際にデータ分析を行うことで、様々な職種で利用されている Microsoft Excel の基礎をマスターできるようにする。			
授業計画 第 1 回 授業概要の説明（専門科目や卒業研究での必要性などを含む） 第 2 回 Microsoft Excel について（プログラミングとの相違などを含む） 第 3 回 データサイエンスの必要性 第 4 回 Excel ワークシートやブックの管理（ファイルの扱い方） 第 5 回 セル参照（相対参照、絶対参照、複合参照） 第 6 回 数式入力・関数入力（各種指標を公式から計算する） 第 7 回 関数 実践編その 1（具体的な例（偏差値など）、統計学を用いた計算） 第 8 回 関数 実践編その 2（条件付きの計算、アンケートの集計等） 第 9 回 関数 実践編その 3（専門科目や卒業研究で生かせる各種関数） 第 10 回 総合演習 1（これまでの総復習、統計学を含む） 第 11 回 グラフ（各種グラフの特徴とその作成方法） 第 12 回 応用編その 1（関数を用いたデータ検索、分布） 第 13 回 応用編その 2（関数を用いた論理演算） 第 14 回 総合演習 2（これまでの総復習） 第 15 回 試験 第 16 回 まとめ			
テキスト 授業時間中に適宜配布する。			
参考書・参考資料等 必要な場合に別途指示する。			
学生に対する評価			

試験 60%、提出課題 30%、授業態度 10%で評価する。

授業科目名： 先端テクノロジー概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：大住 倫弘 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・情報とコンピュータ		
授業の到達目標及びテーマ 先端テクノロジーの仕組みを理解するだけにとどまらず、自身でプログラミングする経験を培い、それらによって新たなテクノロジーを創造する基盤を形成する。			
授業の概要 自宅を掃除してくれるロボット，ひとを感知して温度調整してくれるエアコン，健康管理をしてくれる腕時計，ひとが考えていることを数値化してくれる脳波デバイス，将来を予測してくれる人工知能，仮想空間でのコミュニケーションを可能にするゴーグルなど，新しいテクノロジーが私たちの生活空間に取り入れられています．しかしながら，これらのテクノロジーはあまりに日常生活に溶けこみすぎて，それらがどのような仕組みで機能してくれているのかを考えたこともないでしょう．本科目では，それらの新しいテクノロジーが機能している仕組みを理解するだけでなく，Python や MATLAB などのプログラミング言語でそれらの開発の端緒に触れ，その理解に基づいて新たなテクノロジーを創造する基盤を形成したいと考えています．			
授業計画 第 1 回 日常生活に役立つ先端テクノロジーの概観 第 2 回 画像認識 AI の仕組みと理解 ー機械学習の理解ー 第 3 回 画像認識 AI の仕組みと理解 ー機械学習の実装ー 第 4 回 体調管理 AI の仕組みと理解 ー心電図の基礎的理解ー 第 5 回 体調管理 AI の仕組みと理解 ー心電図の波形抽出とプログラミングー 第 6 回 体調管理 AI の仕組みと理解 ー自律神経活動の解析プログラムー 第 7 回 脳情報の活用 ー脳機能の基本的理解ー 第 8 回 脳情報の活用 ー脳波の記録ー 第 9 回 脳情報の活用 ー脳波の解析プログラム作成ー 第 10 回 仮想現実（Virtual Reality: VR）空間の活用 ー認知神経科学に基づくヒト視知覚の理解ー 第 11 回 仮想現実（Virtual Reality: VR）空間の活用 ーVR 技術の活用例の把握ー 第 12 回 仮想現実（Virtual Reality: VR）空間の活用 ーVR 空間の作成ー 第 13 回 将来を予測する人工知能（Artificial Intelligence : AI）の仕組みと理解 第 14 回 AI を活用したデータの利活用 ー環境問題ー 第 15 回 AI を活用したデータの利活用 ー医療現場ー			
テキスト 適宜，資料を CEAS で配布する			

参考書・参考資料等

授業で活用するプログラムコードは適宜 CEAS など で共有する.

学生に対する評価

授業態度 50%, レポート課題の内容 50%

授業科目名： デジタル空間デザイン 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：大住 倫弘 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	教科に関する専門的事項 ・情報とコンピュータ		
授業の到達目標及びテーマ			
デジタル空間を構築する最低限のスキルを学習するだけでなく、デジタル空間への没入感をもたらすヒトの認知神経科学的メカニズムを学習する。加えて、仮想空間と現実空間との相互作用についても学び、デジタル空間の利活用を考える。			
授業の概要			
オンライン会議やオンライン授業，あるいは不動産会社が企画するオンライン内覧会など，リアルな空間でしかできないと思っていたことがデジタル空間で実装される時代になりました。これによって物理的な身体移動が必要なくなり，個々が抱える身体的な問題，居住地の問題などが解消されつつあります。本科目では，Unity などを活用しながらデジタル空間を構築するプログラミング演習を通して，これらのデジタル空間がどのように設計されているのかを理解するとともに，それらの技術がどういったことに活用できるのかを考えていきます。また，たとえデジタル空間であっても，設計を工夫すれば“奥行き” や “触れた感覚” をありありと経験することができます。本科目では，そのような経験がもたらされる背景にあるヒトの認知神経科学的メカニズムについても学習してもらいます。			
授業計画			
第1回 デジタル空間の概観 ー日常での導入例ー			
第2回 デジタル空間への没入をもたらす認知神経科学的メカニズムの理解 ーヒトの視知覚ー			
第3回 デジタル空間への没入をもたらす認知神経科学的メカニズムの理解 ーヒトの体性感覚ー			
第4回 デジタル空間への没入をもたらす認知神経科学的メカニズムの理解 ー知覚実験ー			
第5回 3D コンピュータグラフィックスのデザイン ー3D スキャンの基礎ー			
第6回 3D コンピュータグラフィックスのデザイン ー3D 画像編集の基礎ー			
第7回 3D コンピュータグラフィックスのデザイン演習① ー作図ー			
第8回 3D コンピュータグラフィックスのデザイン演習② ーモデリングー			
第9回 デジタル空間構築のためのプログラミング ーUnity の紹介と活用ー			
第10回 デジタル空間構築のためのプログラミング演習① ーUnity によるプログラミング基礎ー			
第11回 デジタル空間構築のためのプログラミング演習② ーUnity によるプログラミング応用ー			
第12回 デジタル空間構築のためのプログラミング演習③ ーヘッドマウントディスプレイへの投影ー			
第13回 デジタル空間の活用事例の調査			
第14回 デジタル空間の創造演習① ーアイディア創出と設計ー			
第15回 デジタル空間の創造演習② ー独自デジタル空間の作成ー			

テキスト 適宜，資料を CEAS で配布する.
参考書・参考資料等 授業で活用するプログラムコードは適宜 CEAS などて共有する.
学生に対する評価 授業態度 50%， レポート課題の内容 50%

授業科目名： 技術科指導法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：世良啓太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 普通教育における技術教育の意義を理解するとともに、各学習内容(A-D)および教科性に基づいた授業構築を行うために必要な知識を習得する。			
授業の概要 学習指導要領および学習指導要領解説を中心に授業を展開します。			
授業計画 第1回：ガイダンス：技術の定義 第2回：技術科教育の概念 第3回：技術科教育の歴史的変遷 第4回：技術科教育の海外の紹介 第5回：技術科教育の海外の動向（実践研究の調査） 第6回：技術科教育の海外の動向（実践研究の検討と実践） 第7回：技術科教育の海外の動向（実践研究の統合）（PC によるプレゼンテーションを含む） 第8回：我が国の技術教育の紹介 第9回：技術科教育に関わる教科・分野の目標（学習指導要領の理解） 第10回：技術科教育に関わる内容理解（学習指導要領の理解） 第11回：内容 A「材料と加工の技術」（学習指導要領の理解） 第12回：内容 B「生物育成の技術」（学習指導要領の理解） 第13回：内容 C「エネルギー変換の技術」（学習指導要領の理解） 第14回：内容 D「情報の技術」（学習指導要領の理解） 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領技術・家庭編（平成29年6月 文部科学省） 技術分野教科書（開隆堂、東京書籍、教育図書）計3冊			

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

定期試験 40%、レポート 20%、授業内プレゼンテーション 40%

授業科目名： 技術科指導法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：世良啓太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 普通教育における技術教育の意義を踏まえ、各学習内容(A・D)における題材の選定ならびに授業設計に必要な知識を習得する。			
授業の概要 学習指導要領および学習指導要領解説を中心に授業を展開します。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：技術科内容 A・D で取り扱われる教材・教具 第3回：技術科の授業設計①（目標、授業設計） 第4回：技術科の授業設計②（学習課題、指導方略） 第5回：技術科の学習評価 第6回：技術科の安全管理および安全指導 第7回：技術科の題材の意義および選定方法 第8回：技術科の題材研究①（題材の調査） 第9回：技術科の題材研究②（題材の試行および学習指導要領の内容との対応） 第10回：技術科の題材研究③（PC によるプレゼンテーションを含む） 第11回：3年間の教育課程の立案①（年間指導計画を含む） 第12回：3年間の教育課程の立案②（PC によるプレゼンテーションを含む） 第13回：技術科授業のバーチャル見学 第14回：技術科授業バーチャル見学に対するディスカッション 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領技術・家庭編（平成29年6月 文部科学省） 技術分野教科書（開隆堂、東京書籍、教育図書）計3冊			

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

定期試験 20%、レポート 30%、授業内プレゼンテーション 50%

授業科目名： 技術科指導法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：世良啓太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 中学校技術・家庭科技術分野における年間指導計画の立案及び授業構築を行うために必要な知識及び技能を習得する。			
授業の概要 指導案の作成について講義をした後に、内容「A 材料と加工の技術」の年間指導計画立案を行います。 各授業生は年間指導計画で挙げられた内容をテーマとする模擬授業を行います。模擬授業はビデオ撮影し、他受講生を含めて協議します。随時教員から補足説明を行います。最終課題として内容「A 材料と加工の技術」の題材選定、年間指導計画および授業計画をまとめたファイルを提出してもらいます。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：内容 A「材料と加工の技術」の年間指導計画の作成 第3回：技術科の指導案の作成について 第4回：技術科の評価について 第5回：内容 A「材料と加工の技術」の教材研究 第6回：模擬授業・協議会 1 ガイダンス 第7回：模擬授業・協議会 2 「生活や社会を支える技術」木材の特徴 第8回：模擬授業・協議会 3 「生活や社会を支える技術」他材料（金属、プラスチック）の特徴 第9回：模擬授業・協議会 4 「技術による問題解決」設計にかかわる知識・技能 第10回：模擬授業・協議会 5 「技術による問題解決」切削にかかわる知識・技能 第11回：模擬授業・協議会 6 「技術による問題解決」組み立てにかかわる知識・技能 第12回：模擬授業・協議会 7 「技術による問題解決」仕上げにかかわる知識・技能 第13回：模擬授業・協議会 8 「技術による問題解決」構想、製図、ブリッジコンテストなど 第14回：模擬授業・協議会 9 「社会の発展と技術」材料と加工の技術の評価 第15回：模擬授業・協議会 10 「社会の発展と技術」材料と加工の技術の活用			
テキスト 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領技術・家庭編（平成29年6月 文部科学省）			

技術分野教科書（開隆堂、東京書籍、教育図書）計 3 冊
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 模擬授業の発表内容 60%（指導案含む）、協議の取り組み 10%、最終課題 30%(口頭試問含む)

授業科目名： 技術科指導法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：世良啓太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 技術）		
各科目に含めることが 必要な事項	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 中学校技術・家庭科技術分野における実践的研究を行うための、学問的背景について理解するとともに、自身で実践的研究の研究アプローチを立てることができる。			
授業の概要 技術科に関わる実践的研究を進められるように、学術的背景として ITEEA ならびに日本産業技術教育学会の刊行する技術教育のスタンダードを取り上げて、その内容を理解する。そのうえで、実践的研究についてレビューを行い、実践的研究のアプローチを検討する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：技術科教育に関わる国際的な展望①（概要） 第3回：技術科教育に関わる国際的な展望②（Core Disciplinary Standards について） 第4回：技術科教育に関わる国際的な展望③（Technology and Engineering Practices について） 第5回：技術科教育に関わる国際的な展望④（Technology and Engineering Contexts について） 第6回：技術科教育に関わる我が国の展望①（概要） 第7回：技術科教育に関わる我が国の展望②（技術リテラシー教育の目標と構成について） 第8回：技術科教育に関わる我が国の展望③（技術リテラシー教育と STEAM 教育について） 第9回：技術科教育に関わる我が国の展望④（内容知・方法知体系表について） 第10回：技術科における実践的研究事例について（内容 A 材料と加工の技術） 第11回：技術科における実践的研究事例について（内容 B 生物育成の技術） 第12回：技術科における実践的研究事例について（内容 C エネルギー変換の技術） 第13回：技術科における実践的研究事例について（内容 D 情報の技術） 第14回：実践的研究のアプローチの検討について 第15回：実践的研究のアプローチの検討について（PC によるプレゼンテーションを含む） まとめ			
テキスト 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 中学校学習指導要領技術・家庭編（平成29年6月 文部科学省）			

技術分野教科書（開隆堂、東京書籍、教育図書）計 3 冊

参考書・参考資料等

日本産業技術教育学会：次世代の学びを創造する新しい技術教育の枠組み

ITEEA : Standards for Technological and Engineering Literacy

学生に対する評価

レポート 40%、協議の取り組み 40%、実践的研究のアプローチの検討 20%

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 松井圭子 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 日本国憲法		
授業の到達目標及びテーマ 日本国憲法の基本的な知識（人権・統治）を習得している。			
授業の概要 日本国憲法の基本的な知識を習得できるよう授業を進めます。			
授業計画 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 憲法総論 第 3 回 人権 1（人権総論） 第 4 回 人権 2（法の下での平等，幸福追求権） 第 5 回 人権 3（精神的自由権－表現の自由以外） 第 6 回 人権 4（精神的自由権－表現の自由 1） 第 7 回 人権 5（精神的自由権－表現の自由 2） 第 8 回 人権 6（経済的自由権） 第 9 回 人権 7（社会権，人身の自由など） 第 10 回 統治総論 第 11 回 統治 1（国会） 第 12 回 統治 2（内閣） 第 13 回 統治 3（司法権） 第 14 回 統治 4（その他） 第 15 回 総復習 第 16 回 定期試験			
テキスト レジュメを配布します。			
参考書・参考資料等 ・ 教職課程のための憲法入門 第 2 版・西原 博史，斎藤 一久（編集）・弘文堂・433535763X 内容は簡単ではありませんが，教職課程をとられる方は，興味を持って読んでいただけるのではないかと思います。なお，時間の都合上，授業中に教職に特化した内容までは踏み込めないと思いますが，内容のリクエスト（このようなことを授業で取り扱ってほしいなど）やご質問は随時受け付けます。 ・ 日本国憲法 大阪おばちゃん語訳・谷口 真由美・文藝春秋（文庫）・4167912694 日本国憲法の条文の意味を楽しく理解できる本です。			

- ・ 一歩先への憲法入門〔第2版〕・片桐 直人, 井上 武史, 大林 啓吾・有斐閣・464122823X
法学部生や法科大学院生でも十分使える内容ですが, 比較的わかりやすく書かれています。
 - ・ 憲法 第七版・芦部 信喜 (著), 高橋 和之 (補訂)・岩波書店・4000613227
憲法の基本書で1冊おすすめするとすればこの本です。
 - ・ 憲法判例 50! 第2版 (START UP)・上田 健介, 尾形 健, 片桐 直人・有斐閣・4641227861
憲法の有名な判例を厳選して紹介されています。解説もわかりやすいので, おすすめです。
- その他, 参考図書は, 授業中に紹介します。

学生に対する評価

毎回の確認テストの受講状況や成績を含む履修態度に対する評価を60%, 定期試験の評価を40%とします。

の

授業科目名： スポーツ実習Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：生野勝彦 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 体育		
授業の到達目標及びテーマ (1) 仲間と協力して運動を楽しむことができる。 (2) スポーツの実践を通してその意義が理解できる。			
授業の概要 本実習を健康・スポーツ科学の実践・入門編と位置づける。多くの学生はコロナ禍のなか運動不足になりがちであるが、現在おかれている状況を前向きに捉え、生涯体育につなげる態度を身につける。			
授業計画 第 1 回～第 5 回卓球、第 6 回～第 10 回バレーボール、第 11 回～第 15 回バスケットボール（実施種目は変更する場合がある） 《スポーツのできる服装に更衣すること》 ※卓球 第 1 回オリエンテーション・ナックルサービス・ドライブサービス・フォアハンド 第 2 回カットサービス・バックハンド・チャンピオンゲーム 第 3 回フォアハンドドライブ・スマッシュ・チャンピオンゲーム 第 4 回ダブルスのリーグ戦 第 5 回シングルのリーグ戦 ※バレーボール 第 6 回アンダーサーブ・オーバーハンド・アンダーハンド 第 7 回円陣パス（パスとカバープレー）・レシーブ練習 第 8 回ランニングパス・トスとスパイク 第 9 回ゲーム 第 10 回ゲーム ※バスケットボール 第 11 回ドリブルとピボット 第 12 回ボールミートとシュート 第 13 回フェイクとシュート 第 14 回ゲーム（審判法） 第 15 回ゲーム			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

適宜

学生に対する評価

スキルテスト 60%、平常点 40%

授業科目名： スポーツ実習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：生野勝彦 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 体育		
授業の到達目標及びテーマ (1) 仲間と協力して運動を楽しむことができる。 (2) スポーツの実践を通してその意義が理解できる。			
授業の概要 本実習を健康・スポーツ科学の実践・入門編と位置づける。多くの学生はコロナ禍のなか運動不足になりがちであるが、現在おかれている状況を前向きに捉え、生涯体育につなげる態度を身につける。			
授業計画 第 1 回～第 5 回卓球、第 6 回～第 10 回バレーボール、第 11 回～第 15 回バスケットボール（実施種目は変更する場合がある） 《スポーツのできる服装に更衣すること》 ※卓球 第 1 回オリエンテーション・ナックルサービス・ドライブサービス・フォアハンド 第 2 回カットサービス・バックハンド・チャンピオンゲーム 第 3 回フォアハンドドライブ・スマッシュ・チャンピオンゲーム 第 4 回ダブルスのリーグ戦 第 5 回シングルのリーグ戦 ※バレーボール 第 6 回アンダーサーブ・オーバーハンド・アンダーハンド 第 7 回円陣パス（パスとカバープレー）・レシーブ練習 第 8 回ランニングパス・トスとスパイク 第 9 回ゲーム 第 10 回ゲーム ※バスケットボール 第 11 回ドリブルとピボット 第 12 回ボールミートとシュート 第 13 回フェイクとシュート 第 14 回ゲーム（審判法） 第 15 回ゲーム			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

適宜

学生に対する評価

スキルテスト 60%、平常点 40%

授業科目名： 運動の科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 辰巳智則 上田恵子 担当形態： オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 体育		
授業の到達目標及びテーマ			
・ 運動行動に関する諸概念とその全体構造を正しく理解している。 ・ 運動技能及び体力を向上させる「学習・トレーニング」の心理学的・生理学的基礎を正しく理解している。 ・ わが国の現状と健康づくりのための施策や運動プログラムを正しく理解している。 ・ 学生生活さらには今後の社会人生活において、健康を獲得・維持するために必要となる知識を正しく理解するとともに、身に付けた知識を日常生活で実践することができる。			
授業の概要			
「運動行動」は人間の営みの基盤であり、広く学習・トレーニングやその指導を適切に行うためには、運動行動を構成する基礎的な概念（体力、技能他）の理解が不可欠である。次に、健康づくりに関する適切な運動指導を行う上では、わが国の疾病状況や高齢化の現状への理解を欠いてはならない。本講義ではまず、広く運動に関する学習・トレーニングの科学的基礎を学ぶ。次に、運動・身体活動を含む様々な生活習慣が健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき検討し、実技演習を通じてこれを加味した実践的理解へと昇華させる。			
授業計画			
第 1 回 オリエンテーション（辰巳智則・上田恵子）			
第 2 回 運動行動に関わる諸概念とその全体構造（辰巳智則）			
第 3 回 運動能力の仕組み（辰巳智則）			
第 4 回 運動に関する諸能力の発達と適時性（辰巳智則）			
第 5 回 運動学習に関する心理学的基礎 1：運動制御理論と主な運動学習理論（辰巳智則）			
第 6 回 運動学習に関する心理学的基礎 2：学習段階とその特徴（辰巳智則）			
第 7 回 体力トレーニングに関する生理学的基礎：エネルギー供給の問題（辰巳智則）			
第 8 回 体力トレーニングの原則（辰巳智則）			
第 9 回 健康づくり施策の変遷（上田恵子）			
第 10 回 生活習慣病について（上田恵子）			
第 11 回 ロコモティブ・シンドロームについて（上田恵子）			
第 12 回 健康づくりのための身体活動基準、身体活動のタイムスタディ（上田恵子）			
第 13 回 行動変容理論（上田恵子）			
第 14 回 立位と歩行の実践 1：正しい姿勢作り（実技演習）（上田恵子）			

第15回 立位と歩行の実践2：正しい歩き方（実技演習）（上田恵子）

定期試験

テキスト

随時講義資料を配布する。

参考書・参考資料等

随時紹介する。

学生に対する評価

受講態度（30%）/定期試験（70%）

授業科目名 英語コミュニケーション I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：宮田裕子 荻野綾 担当形態：クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・外国語コミュニケーション		
授業の到達目標及びテーマ 中学校・高等学校で習得した基本的な英語の運用能力に基づき、大学生の知的レベルに適応する 4 技能の基礎力の育成と強化を目標とする。			
授業の概要 中学校・高等学校における基本的な英語教育をさらに発展させ自己の考えを表現したり、相手の意図を理解する力を涵養するための英語力の習得を目的とする。そこには、コミュニケーションの道具としてだけではなく、思考の手段としてのことばも含まれる。また、英語の習得のために、母国語と同様に、必要以上に文法を意識することなく、自然に意味を理解する英語運用能力の養成と強化を目指す。英語授業の担当教員は、学生のレベルに合わせたリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの 4 技能をバランスよく伸ばすことを目標としながら、リスニングとスピーキングの学習を中心的にそれぞれ 90 分の授業を主にすべて英語で行う。それにより、前期の授業の終了後は基礎的な会話力が身につく、自信を持って話せるようになり、英語で書かれた文章の大筋を理解する力、並びに、自分の考えを英語で表現できるようになる。			
授業計画 第 1 回 Orientation（オリエンテーション） 第 2 回 Unit 1: Discussing Places（ユニット 1: 場所について話し合う） 第 3 回 Unit 1: Discussing past actions（ユニット 1: 過去の出来事を伝える） 第 4 回 Unit 1: Deciding if ideas are relevant（ユニット 1: 考えが関連しているかを判断する） 第 5 回 Unit 2: Discussing festivals and celebrations（ユニット 2: お祭りやお祝いについて話し合う） 第 6 回 Unit 2: Discussing actions in the present（ユニット 2: 現在おこなっていることを伝える） 第 7 回 Unit 2: Creating a persuasive argument（ユニット 2: 聞き手が納得できる考えを示す） 第 8 回 Unit 3: Discussing technology（ユニット 3: 科学技術について話し合う） 第 9 回 Unit 3: Discussing possibilities（ユニット 3: 今後の可能性を伝える） 第 10 回 Unit 3: Evaluating advantages and disadvantages（ユニット 3: 利点や欠点に評価を加える） 第 11 回 Unit 4: Discussing the weather and climate（ユニット 4: 天気と気候について話し合う） 第 12 回 Unit 4: Discussing future actions（ユニット 4: 今後の予定を伝える） 第 13 回 Unit 4: Making predictions（ユニット 4: 予測を立てる） 第 14 回 Unit 4: Evaluating effects（ユニット 4: 結果を評価する） 第 15 回 Review/Survey（表現の復習と定期試験について）			

第16回 Final Exam（定期試験）
テキスト テキスト名：Unlock 2, Dimond-Bayir, Stephanie, Russel, Kimberly. Cambridge University Press. （前後期共通）
参考書・参考資料等 授業内で随時紹介する。
学生に対する評価 平常点（50%）小テスト、課題、参加、態度など 定期試験（50%）

授業科目名 情報処理演習Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：冬木正紀 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 情報機器の操作		
授業の到達目標及びテーマ			
情報通信技術（ICT）の発達により、ひともモノもインターネットでつながっている時代が来ました。このような情報化時代において、ICT 利用の「仕組み」と「関連用語」を学習することにより、ICT 利用の背景にあるモデルを理解し、ICT を用いて様々な問題を解決する能力を養うことを授業目標としています。			
授業の概要			
前半の基礎編では、大学での学習に必要なソフトウェアやシステムの操作を学習します。後半の応用編では、大学卒業後に特に必要となる情報活用の知識と操作を学習します。これらの学習の際には、対象の仕組みについても理解を深めます。			
授業計画			
基礎編			
第 1 回 畿央大学の情報環境と学習支援システムの使い方			
第 2 回 貸与パソコンの設定と拡張子			
第 3 回 貸与パソコンの設定の確認と日経パソコン Edu の登録			
第 4 回 パソコン内のファイルの管理			
第 5 回 パソコンの構成要素			
第 6 回 OS とインターフェース			
第 7 回 インターネットのしくみ			
第 8 回 IP アドレス			
第 9 回 これまでのふりかえり			
応用編			
第 10 回 データのデジタル化			
第 11 回 文字コード			
第 12 回 Web ページを作る			
第 13 回 情報倫理			
第 14 回 まとめ			
第 15 回 定期試験			
第 16 回 補足の説明			
テキスト			
教科書：パソコン＆オンライン授業活用読本（日経 BP 社）（最初の授業までに購入しておくこと）			

なお、毎回の授業資料は OpenCEAS 内に用意します。

参考書・参考資料等

必要な場合は紹介します。

学生に対する評価

1. 定期試験：75%
2. 出席＋提出物：25%（出席状況と授業の中で指示する提出物の内容および提出状況など）

授業科目名 情報処理演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：冬木正紀 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 情報機器の操作		
授業の到達目標及びテーマ			
情報化社会において様々な問題を解決できる能力を養うために、データの分析方法を習得すること、さらに AI 利用を通じて、その特徴を理解することを目標としています。			
授業の概要			
基礎編では、統計の基礎的な概念を身に付けた上で Excel を利用したデータ処理の基礎を習得します。 応用編では、Excel を用いて AI を作成、利用し、AI の判断特性を理解します。			
授業計画			
基礎編			
第 1 回 統計の基礎（1）平均値・標準偏差・偏差値			
第 2 回 統計の基礎（2）相関（前半）			
第 3 回 統計の基礎（3）相関（後半）			
第 4 回 統計の基礎（4）回帰（前半）			
第 5 回 統計の基礎（5）回帰（後半）			
第 6 回 統計の基礎（6）類似			
第 7 回 統計の基礎（7）これまでのふりかえり			
第 8 回 統計ソフトの基礎（1）Excel の集計機能			
第 9 回 統計ソフトの基礎（2）Excel の集計機能の追加説明			
第 1 0 回 統計ソフトの基礎（3）Excel のグラフ機能			
応用編			
第 1 1 回 AI とその「学習」の特徴			
第 1 2 回 未来予測用 AI の作成（前半）			
第 1 3 回 未来予測用 AI の作成（後半）			
第 1 4 回 まとめ			
第 1 5 回 定期試験			
第 1 6 回 補足の説明			
テキスト			
教科書：パソコン&オンライン授業活用読本（日経 BP 社）（情報処理演習Ⅰと同じ教科書です。） なお、毎回の授業資料は OpenCEAS 内に用意します。			
参考書・参考資料等			
必要な場合は紹介します。			

学生に対する評価

1. 定期試験：75%
2. 出席＋提出物：25%（出席状況と授業の中で指示する提出物の内容および提出状況など）

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：森岡伸枝 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ			
本授業では、教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。			
授業の概要			
具体的には、以下のような項目について理解を深めることができるようにする。			
(1) 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。			
1) 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標。			
2) 子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係。			
(2) 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。			
1) 家族と社会による教育の歴史。			
2) 近代教育制度の成立と展開。			
3) 歴史的な視点から見た現代社会における教育課題。			
(3) 教育に関する思想、多様な教育理念と実践および学校教育との関連			
1) 家庭や子供の教育に関する思想。			
2) 学校や学習に関わる教育の思想。			
3) 代表的な教育家のうち主として中等教育に関わる思想。			

授業計画

第1回 ガイダンスー教育の理念と歴史を取り扱う意義ー

第2回 「教育」概念のとらえ方ーソクラテスなどー

第3回 西洋教育思想の系譜（ロック）

第4回 西洋教育思想の系譜（ルソー）

グループ討論「生徒の主体性を伸ばすとはどういうことか」

第5回 家族と社会による教育の歴史（江戸の子育てと家）

第6回 近代教育制度の成立（西洋）

第7回 近代教育制度の成立（日本）

グループ討論「今の学校に求められているものは何か」

第8回 近代教育制度の展開（新教育運動とデューイ）

第9回 近代教育制度の展開（大正期の教育運動）

グループ討論「教師にとって授業とは何か」

第10回 戦時体制と義務教育制度の確立

第11回 戦後の学校改革と民主化と家庭の変化

第12回 現代の学校の目指すものー新しい学力観、学力の3要素ー

グループ討論「生徒の学力をのばす教師とは」

第13回 現代日本の教育課題①子どもの人権の諸問題（いじめ・校則・体罰）

第14回 現代日本の教育課題②教師のふるまい（ジェンダー・LGBTQ）

グループ討論「理想的な教師像について」

第15回 まとめとふりかえりー教育の歴史・理念から現代教育を問いなおす

テキスト

『教育の理念・歴史』新・教育課程シリーズ、田中智志他編、一蓺社、2013年（ISBN-13-978-4863590571）

参考書・参考資料等

2017年改訂『中学校学習指導要領』文部科学省

2018年改訂『高等学校学習指導要領』文部科学省

学生に対する評価

1. 授業内課題提出物(20%)
2. 授業への参加姿勢（10%）
3. 期末レポート 70%（内容については授業中に指示する）

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：宮村裕子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ （１）教職の社会的意義や公教育を担う教員の役割について学び、教職に対する理解を深めている。 （２）教職の専門性や教職に求められる資質能力について学び、教職への意欲を高めている。 （３）教員の職務内容やチームとしての学校運営の重要性について学び、多様な人材と連携・協働しながら組織的に諸問題に取り組める、「学び続ける教員」になるための心構えや態度を身に付けている。			
授業の概要 本授業では、我が国の公教育を担う学校教育における教員の職務や責任等について学び、「教職とは何か」を考える。教職の意義や役割、教員に対する社会的な期待について理解し、子どもや学校現場の状況を理解したうえで、自らが現代の教育課題に対応できる教員となるための意欲や態度を養う。近年の教育政策の動向や教職観の変遷について学ぶことで、教員として「ありたい（なりたい）姿」だけでなく、「どのような教員が求められているか」を理解し、そのために教員志望者として「どのように学ぶべきか」を考える。授業は講義形式を基本とするが、必要に応じてグループ討議や演習等を行い、学生同士の学び合いを促進する。			
授業計画 第1回 イン트로ダクションー教職への期待 第2回 公教育を担う教職の意義と特徴 第3回 教員の養成と教員免許状ー教職観の変遷 第4回 教員の採用と求められる資質能力 第5回 教員の職務(1)ー学習指導、授業づくり 第6回 教員の職務(2)ー生徒指導、いじめ対応、進路指導 第7回 教員の職務(3)ー学校内や学校外機関との連携、チーム学校 第8回 教員の服務(1)ー職務上の義務 第9回 教員の服務(2)ー身分上の義務①個人情報の漏えい防止 第10回 教員の服務(3)ー身分上の義務②ハラスメントの防止 第11回 教員の身分と待遇 第12回 教員のライフサイクルと研修(1)ー教員の成長と研修 第13回 教員のライフサイクルと研修(2)ー教員の専門性と研修 第14回 教員に対する評価 第15回 教員のメンタルヘルスと職場環境、まとめ			

定期試験
テキスト 授業内において適宜配布する。
参考書・参考資料等 ・『新しい時代の教職入門』 秋田喜代美・佐藤学 有斐閣 4-641-12241-5 ・『教職入門 未来の教師に向けて』 古橋和夫 編 萌文書林 978-4-89347-123-9
学生に対する評価 定期試験 60% 提出物や授業態度 40%を基本に総合的に判断し評価する。

授業科目名： 教育法制論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 宮村 裕子 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ （１）現代の公教育制度に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、その意義について理解している。 （２）公教育の目的を実現するための学校教育や教育行政の役割、さらに経営的事項について理解するとともに、それらをめぐる課題について考察できる。			
授業の概要 本授業では、公教育の原理や理念を通じて公教育制度の意義について学び、それらを支える教育法規や教育行財政の仕組みについて理解する。学校教育制度の基本的事項を確認したうえで、学校や教育行政機関の経営的事項について学び、その望ましい姿や効果的な在り方について考える。学校経営における PDCA サイクルや、保護者・地域との連携・協働による「地域とともにある学校」づくり、学校安全の意義や必要性についても学ぶ。講義形式が中心となるが、グループ討議や事例を検討する演習を通じて、学生同士で学び合う機会をつくる。			
授業計画 第 1 回 公教育の原理と理念 第 2 回 教育制度と教育法規 第 3 回 教育の基本理念と教育制度の課題(1)—教育の目的 第 4 回 教育の基本理念と教育制度の課題(2)—学校教育・教員制度 第 5 回 教育の基本理念と教育制度の課題(3)—家庭教育・社会教育 第 6 回 教育の基本理念と教育制度の課題(4)—教育行政・教育振興基本計画 第 7 回 教育行財政の組織と機能(1)—国 第 8 回 教育行財政の組織と機能(2)—地方公共団体 第 9 回 学校教育制度の基本的事項と学校経営の仕組み 第 10 回 学校の管理運営(1)—組織編制、教職員 第 11 回 学校の管理運営(2)—施設設備、危機管理 第 12 回 学校の管理運営(3)—教育課程 第 13 回 学校の管理運営(4)—生徒指導 第 14 回 学校経営の制度と動向(1)—マネジメントサイクル、学校評価 第 15 回 学校経営の制度と動向(2)—保護者や地域との連携・協働、学校安全への対応 定期試験			
テキスト ・健康科学部：『必携教職六法 2023 年度版』（協同出版）			

・教育学部：『教育法規スタートアップ・ネクスト——Crossmedia Edition』高見茂・開沼太郎・宮村裕子編、昭和堂

・その他、授業において適宜プリントを配布する。

参考書・参考資料等

・『新・教育制度論—教育制度を考える 15 の論点』高妻紳二郎編著 ミネルヴァ書房

学生に対する評価

1. 定期試験：70%（授業で学習した内容全体が出題範囲となる）
2. 提出物と受講態度：30%（授業中の課題への取り組みや提出状況を確認する）

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 小山内 秀和 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、子どもの学習活動を支えるための支援や指導につながる考え方を理解できる。			
授業の概要 幼児期から青年期にかけての子どもの発達について、知覚・運動、認知、言語、対人関係、社会性といった諸側面から概観する。その上で、学習のメカニズムである条件づけや記憶機能、知識と思考、動機づけといった、学習活動を支える心理的メカニズムを解説する。さらに、それを踏まえた教授法の理論や教育評価、子どもを理解するための知的能力やパーソナリティなどの個性と集団に関する理論、適応の問題とその援助について説明する。			
授業計画 第1回 イン트로ダクション：子どもの発達と教育心理学 第2回 子どもの発達1：新生児期、乳児期の特徴 第3回 子どもの発達2：幼児期の特徴 第4回 子どもの発達3：児童期の特徴 第5回 子どもの発達4：思春期、青年期の特徴 第6回 学習のしくみ 第7回 記憶のしくみ 第8回 学習の過程1：知識の獲得 第9回 学習の過程2：思考と問題解決 第10回 動機づけ 第11回 教授法と子どもの援助1：連合理論・認知理論・社会構成理論 第12回 教授法と子どもの援助2：授業と教師の影響 第13回 教育評価 第14回 子どもの個性と集団の理解 第15回 子どもの適応の課題とその支援 定期試験			
テキスト 『教師と学生が知っておくべき教育心理学』武田明典（編著）、北樹出版、2020 年、ISBN 978-4-779306358			

参考書・参考資料等

『教育心理学 第3版』子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司（著）、有斐閣、2015年（ISBN 978-4-641-07245-9）

『教育心理学：言語力から見た学び』福田由紀他（著）、培風館、2016年（ISBN 978-4563052485）

学生に対する評価

- ・定期試験（60%）
 - ・各回のアンケートまたは小レポート（オンライン授業支援システム上で課題を設定し指定された方法での提出とする：30%）
 - ・授業での積極的な参加態度（10%）
- で評価する。

授業科目名： 発達心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 小山内 秀和 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけることができる。 特に、ヒトの心身の発達過程についての知見を理解、習得できる。			
授業の概要 子どもの発達について、まず代表的理論と、発達に関連する外的、内的要因等について解説する。次に、胎児期から青年期までの言語、運動、認知、社会性、感情、対人関係、アイデンティティといった各側面の発達について詳しく見てゆく。さらに、成人期、老年期にいたるまでの、生涯にわたる発達のすがたを解説する。			
授業計画 第1回 イントロダクション 第2回 発達の理論と遺伝・環境 第3回 新生児の能力とその発達 第4回 知覚と運動の発達 第5回 認知の発達 第6回 言語の発達 第7回 アタッチメント 第8回 社会性の発達 第9回 感情の発達と自己制御 第10回 対人関係の発達 第11回 アイデンティティの発達 第12回 恋愛とジェンダー・性役割 第13回 家族関係の発達 第14回 成人期の発達 第15回 老年期の発達 定期試験			
テキスト 教員が作成した資料を配布する。			
参考書・参考資料等 『ベーシック発達心理学』開一夫・齋藤慈子（編），東京大学出版会，2018 年（ISBN 978-4-13-012113-2）			

学生に対する評価

- ・ 定期試験 (60%)
 - ・ 各回のアンケートまたは小レポート ((OpenCEAS で課題を設定し指定された方法での提出とする : 30%)
 - ・ 受講態度 (10%)
- で評価する。

授業科目名： 特別支援教育入門A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 大久保賢一 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ 到達目標は以下の 5 点である。 ①ICF をはじめとする「障害」に対する多様な捉え方を理解し、説明できるようになる。 ②障害児教育のこれまでの歴史的経緯と特別支援教育への転換に関する背景や理念を理解し、説明できるようになる。 ③インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解し、説明できるようになる。 ④発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解し、説明できるようになる。 ⑤視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難、障害以外の教育ニーズについて基礎的な知識を身に付けている。			
授業の概要 本講義は、通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することを目標とする。特別支援教育に関する基礎的な理念、歴史、制度、障害児教育各領域の方法、指導法を紹介する。講義やグループ討議等を通して実践的に学修する。特別支援教育を初めて学ぶ者が受講することが望ましい。			
授業計画 第 1 回 様々な「障害」の捉え方と特別支援教育の制度（特別支援学校、特別支援学級、通級による指導） 第 2 回 ICF における「障害観」（教育制度や教育課程との関連、「養護訓練」から「自立活動」へ） 第 3 回 特別支援教育の歴史と現代的課題①（障害児教育の世界史と日本史、教育制度の変遷） 第 4 回 特別支援教育の歴史と現代的課題②（優生思想、貧困、言語、文化、セクシュアリティなど） 第 5 回 発達障害に関する概説（発達障害の定義、LD、ADHD） 第 6 回 発達障害に関する概説（ASD、その他の発達障害） 第 7 回 学習面と行動面の支援 第 8 回 まとめと最終レポート			

テキスト

毎回、資料を配付します。

参考書・参考資料等

- ・五十嵐信敬 他（2000）『教職教養 障害児教育』，コレール社
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・世界保健機構（WHO）（2005）『ICF（国際生活機能分類）活用の試み』，ジアース教育新社
- ・内山登紀夫 他（2006・2008）『シリーズ 発達と障害を考える本 1～12』，ミネルヴァ書房
- ・内山登紀夫 他（2009）『シリーズ 特別支援教育をすすめる本 1～4』，ミネルヴァ書房
- ・斎藤佐和 他（2006）『講座 特別支援教育① 特別支援教育の基礎理論』，教育出版
- ・上野一彦 他（2007）『S・E・N・S 養成セミナー 特別支援教育の理論と実践 I 概論・アセスメント』，金剛出版
- ・中村満紀男 他（2007）『シリーズ 障害科学の展開 第1巻 障害科学とは何か』，明石書店
- ・安藤隆男 他（2009）『シリーズ 障害科学の展開 第2巻 特別支援教育を創造する教育学』，明石書店
- ・中村満紀男 他（2003）『障害児教育の歴史』，明石書店
- ・時事通信出版局 『よくわかる特別支援学校 教員採用試験よくわかるシリーズ⑨ 2011 年度版』，時事通信出版局

学生に対する評価

レポート課題： 100%

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：関口洋平 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業の到達目標及びテーマ （１）教育課程の意義とその役割・機能について理解している。 （２）教育課程を編成する際の基本原理と編成の方法について理解している。 （３）カリキュラム・マネジメントの内容とその重要性について理解している。			
授業の概要 教育課程は教育の原理や内容、方法と関わり、学校教育のありようを大きく規定するものである。本授業では、広く教育課程の意義、役割・機能、編成原理と方法、それから評価に関する基本的なことからについて、歴史・思想・政策・実践という多様な視点から重層的に理解することをめざす。			
授業計画 第１回 教育課程概念の範囲と射程 第２回 教育課程の編成主体 第３回 教育課程編成の思想と類型①：教育課程の代表的類型 第４回 教育課程編成の思想と類型②：教育課程と教科間の関係 第５回 教育課程編成の原理と構造①：教育課程の編成原理 第６回 教育課程編成の原理と構造②：教育課程の構造 第７回 教育課程と学習指導要領①：1947 年から 1968 年までの変遷 第８回 教育課程と学習指導要領②：1977 年から 1989 年までの変遷 第９回 教育課程と学習指導要領③：1998 年から 2017 年までの変遷 第10回 教育課程と評価①：戦前の教育評価 第11回 教育課程と評価②：戦後の教育評価 第12回 教育課程と評価③：新たな教育評価 第13回 社会における教育課程：学校教育の役割をどう考えるか 第14回 カリキュラム・マネジメントとその実践 第15回 日本の学校におけるカリキュラムの実態			
テキスト プリントを配布する。			
参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』最新版 『よくわかる教育課程』田中耕治編、ミネルヴァ書房、2009 年（ISBN978-4-623-05144-1） 『新しい時代の教育課程（第4版）』田中耕司（ほか）著、有斐閣アルマ、2018年（ISBN978-4-641-22107-9）			

学生に対する評価

1. レポート：60%（授業で学習した内容をテーマとする）
2. 受講態度：40%（授業で提示される課題用シート等を提出すること）

授業科目名： 道徳指導法（中等）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 島恒生 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
道徳の本質（道徳とは何か）を説明できるとともに、道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル等）、子供の心の成長と道徳性の発達、学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容、学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性、道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴、道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。また、道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することや、授業のねらいや指導過程を明確にして道徳科の学習指導案を作成することができ、模擬授業の実施とその振り返りを通じた授業改善の視点を身に付けている。			
授業の概要			
道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画、評価等を理解するとともに、実際に具体的な教材を取り上げて教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を行い、実践的な指導力を身に付ける。			
授業計画			
第 1 回 道徳の本質と道徳教育及び道徳科の目標と内容			
第 2 回 道徳性の発達			
第 3 回 道徳教育の歴史と課題			
第 4 回 道徳科の時間の実際 1 道徳科の授業から学ぶ			
第 5 回 道徳科の時間の実際 2 道徳科の指導過程			
第 6 回 道徳科の時間の発問と教材			
第 7 回 道徳科の時間の学習指導案づくり 1 学習指導案の基礎・基本（学習指導案の作成）			
第 8 回 道徳科の時間の学習指導案づくり 1 学習指導案の基礎・基本（作成した学習指導案の振り返り）			
第 9 回 道徳科の時間の学習指導案づくり 2 発達の段階を考えた指導（学習指導案の作成）			
第 10 回 道徳科の時間の学習指導案づくり 2 発達の段階を考えた指導（作成した学習指導案の振り返りと模擬授業）			
第 11 回 模擬授業の実施と授業改善の視点			
第 12 回 問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習などの多様な指導法			
第 13 回 道徳教育全体計画、年間指導計画			

第14回 道德教育及び道德科の評価
第15回 まとめ
テキスト 『中学校学習指導要領』最新版 『中学校学習指導要領解説 特別の教科道德編』（教育出版）
参考書・参考資料等 授業の中で、その都度指示する。
学生に対する評価 課題70%、受講態度等30% ただし、授業での学習指導案等の課題をすべて合格すること。

授業科目名： 教育方法・技術論（総合的な学習の時間の指導法を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 西端律子 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 総合的な学習の時間の指導法 ・ 教育の方法及び技術		
授業の到達目標及びテーマ （１）少子化、教育観の変化、技術の進歩など教育方法の変化の背景を理解する。 （２）教育メディアの変遷、教育の情報化、プログラミング教育の現状について理解する。 （３）総合的な学習の時間についての指導を行うことができる。			
授業の概要 本授業においては、教育方法および教育技術について、理論と演習を行う。 教育方法については、少子化、教育観の変化などの理論的基盤と背景を理解するとともに、教育の情報化に対応できる資質を獲得したい。また、児童・生徒に情報活用能力を育成するための指導法の実践を行う。さらに、総合的な学習の時間の指導内容、方法について講義を行う。			
授業計画 第 1 回 導入とオリエンテーション・教育方法と教授内容 第 2 回 適切な教育方法の選択 第 3 回 教育観の変化による教育方法の変化 第 4 回 少子化による教育方法の変化 第 5 回 学習状況に関する評価方法及び留意点 第 6 回 教育メディアの変遷と学校放送番組の活用 第 7 回 総合的な学習の時間の意義と教育課程における役割、および学習の基盤となる資質・能力の一つとしての「問題発見・解決能力」の育成方法 第 8 回 総合的な学習の時間の目標および内容を定める際の留意点 第 9 回 総合的な学習の時間の年間指導計画の作成 第 10 回 総合的な学習の時間の授業案作成 第 11 回 ポートフォリオおよび学習データを活用した総合的な学習の時間における学習過程の把握 第 12 回 情報活用能力の育成と情報モラルの醸成 第 13 回 プログラミング演習 第 14 回 プログラミング作品制作 第 15 回 作品グループ内発表			
テキスト			

授業中に指示する。
参考書・参考資料等 学習指導要領（各校種、最新版）
学生に対する評価 提出物（25%）、レポート試験の評価（75%）

授業科目名： 特別活動指導法（中等）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 島恒生 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 特別活動の指導法		
授業の到達目標及びテーマ			
学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容、教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学級活動・ホームルーム活動の特質、生徒会活動、学校行事の特質、教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方、特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、特別活動における家庭・地域住民や関係諸機関との連携の在り方を理解している。また、合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。			
授業の概要			
特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。特に、学級活動・ホームルーム活動の学習指導案の作成、生徒会活動や学校行事の計画立案・評価などは、演習を通して進める。			
授業計画			
第 1 回 特別活動の目標と内容、教育的意義及び各教科等との関連			
第 2 回 特別活動の歴史			
第 3 回 特別活動の内容 一学級・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事一			
第 4 回 学級・ホームルーム活動の指導と評価			
第 5 回 学級・ホームルーム活動の活動内容(1)の指導過程 一合意形成に向けた集団討議一			
第 6 回 学級・ホームルーム活動の活動内容(1)の指導 1 学習指導案の要件			
第 7 回 学級・ホームルーム活動の活動内容(1)の指導 2 学習指導案作成			
第 8 回 学級・ホームルーム活動の活動内容(1)の指導 3 振り返り			
第 9 回 学級・ホームルーム活動の活動内容(2)(3)の指導過程 一意思決定につながる集団思考一			
第 10 回 学級・ホームルーム活動の活動内容(2)(3)の指導 1 学習指導案作成			
第 11 回 学級・ホームルーム活動の活動内容(2)(3)の指導 2 振り返り			
第 12 回 生徒会活動の指導と評価			
第 13 回 学校行事の指導と評価			
第 14 回 特別活動を生かした学級経営と家庭・地域、関係諸機関等との連携			

第15回 まとめ**テキスト**

『中学校学習指導要領』最新版

『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（東山書房）

その他、授業の中で配布する。

参考書・参考資料等

授業の中で、その都度指示する。

学生に対する評価

課題70%、受講態度等30% ただし、授業での学習指導案等の課題をすべて合格すること。

授業科目名： ICT 活用の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 西端 律子 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。			
授業の概要 個別最適な学び、協同的な学びの実現や特別な支援を必要とする児童生徒に対する活用の意義について理解する。デジタル教材の作成と利用、学習履歴、オンライン教育システムや校務支援システムなどを活用できる。各教科等において児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法を身に付ける。			
授業計画 第 1 回 情報教育と教育の情報化の歴史と現状 第 2 回 ICT 活用の理論的基盤 第 3 回 初等中等教育での ICT 活用および情報モラル教育の実践 第 4 回 各教科等における情報活用能力の育成と情報モラル教育 第 5 回 特別支援教育における ICT 活用の実際と合理的配慮 第 6 回 オンライン教育、校務支援などのクラウドサービスの活用 第 7 回 デジタル教材の作成と模擬授業 第 8 回 模擬授業の相互評価			
テキスト 特になし（授業中に指示をする）			
参考書・参考資料等 『ICT 活用の理論と実践: DX 時代の教師をめざして』稲垣忠他 北大路出版			
学生に対する評価 各授業後の小テスト（30%）、作成するデジタル教材とそれを活用した模擬授業（70%）で総合的に評価する。			

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 奥田俊詞 岡野聡子 担当形態： オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
・ 教育課程における生徒指導の位置付けや、各教科等における生徒指導の意義や重要性を理解するとともに、集団指導・個別指導の方法原理や生徒指導と教育相談の基礎的な考え方と違いなどを理解している。			
・ 生徒指導における管理職、主任、担任等の立場や役割を理解し、学校の指導方針等に基づいた組織的な取組の重要性を理解している。			
・ 自己の存在感を基盤とした生活習慣の確立や規範意識の醸成を進める指導について例示することができる。			
・ インターネットなどの今日的な課題や法令に示された不登校やいじめ等の定義や対応について理解し、個別の課題を抱える児童・生徒への対応を専門家等との連携の在り方を含めて例示することができる。			
・ 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けや、組織的な指導体制及び家庭等との連携の在り方を理解し、学校教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示することができる。			
・ キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義及び全体指導を行うガイダンスの機能を生かしたキャリア教育の意義や留意点を理解している。			
・ キャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示することができるとともに、キャリアカウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明することができる。			
授業の概要			
生徒指導と進路指導・キャリア教育について、その意義や指導方法、関連する法令等を理解し、それを踏まえた実践事例について協働的に学修する。授業は、毎時間の課題について討議し、まとめ、発表することを中心に構成する。			

授業計画

- 第1回 生徒指導の意義と指導の基本的な考え方（奥田）
- 第2回 教育課程における生徒指導（奥田）
- 第3回 集団指導と個別指導の方法原理（岡野）
- 第4回 児童・生徒理解とその方法（岡野）
- 第5回 進路指導とキャリア教育の意義（岡野）
- 第6回 進路指導・キャリア教育の実践のしかた（岡野）
- 第7回 キャリア教育で育む資質能力（岡野）
- 第8回 キャリアガイダンスとキャリアカウンセリングの具体的実践（岡野）
- 第9回 学校全体での指導体制（奥田）
- 第10回 生徒指導と教育相談（奥田）
- 第11回 学校を安全な場所とするための指導と環境整備（奥田）
- 第12回 学級・教科指導での生徒指導（奥田）
- 第13回 個別問題への対応（いじめ）（奥田）
- 第14回 個別問題への対応（虐待）（奥田）
- 第15回 個別問題への対応（不登校）（奥田）

テキスト

『中学校学習指導要領』『生徒指導提要』（最新版）

参考書・参考資料等

小学校キャリア教育の手引き（改訂版）http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1293933.htm

中学校キャリア教育の手引き https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1306815.htm

高等学校キャリア教育の手引き https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1312816.htm

学生に対する評価

課題70%、受講態度30%

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：三木 美香 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
教育相談は、幼児児童・生徒が集団の中で適応していく力を育み、個性を伸ばし人格の成長を支援する教育活動であることに鑑み以下の到達目標を掲げる。			
①教育相談を単なる個人の援助・指導だけではなく学校内、保護者、地域との連携に基づくものとしてもとらえる観点を身につけている。			
②幼児児童・生徒の不適応や問題行動の意味や、子どもの発するシグナルに気づき、把握する方法を理解している。（いじめ、不登校、不登園、虐待、非行等も含む）			
③幼児児童・生徒の発達を理解し、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につけている。			
④カウンセリングの必要性を理解し、受容、傾聴、共感的理解等の基礎的な姿勢や技法を身につけている。			
⑤個々の成長を援助し支えるための基礎的知識や洞察力を身に付け、適切に対応するスキルを身につけている。			
⑥教育相談の計画に必要な校内体制の整備や、地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。			
授業の概要			
教育相談について自ら問いを立て、学んでいく姿勢を身につける。相談事例や体験学習を通して、表面的な行動だけでなく、心の問題の背景を洞察する力を身につける。幼児児童・生徒自身だけではなく、保護者への支援について、一般的な指導だけではなく、個人的な悩みや困難を解決できるように援助していく力を身につける。			

授業計画

第1回 教育相談の意義と理論 ―学校における教育相談の意義と理論―

第2回 教育相談に関わる基礎的な知識と技能

第3回 教育相談の方法 ―幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づく―

第4回 教育相談実施者の自己理解の必要性和意義

第5回 学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性和意義

第6回 教師に求められるカウンセリングの基礎的知識と技法

第7回 学級経営に生かす教育相談 学級の集団作り

第8回 青年期の発達と理解

第9回 特別な配慮を要する子どもの理解 ―発達障害についての理解―

第10回 特別な配慮を要する子どもの対応と支援

第11回 不適応や問題行動 いじめ・不登校・虐待等の課題

第12回 教育相談の展開① 校内連携の必要性和その整備・進め方、相談計画の作成

第13回 教育相談の展開② 関係機関との連携の意義と必要性

第14回 保護者に対する教育相談 ―保護者の理解と支援―

第15回 教育相談のまとめと今後の課題

※ 授業の進行上、講義の順番が入れ替わることがある。

テキスト

森田健宏・吉田佐治子 よくわかる教職エクササイズ③教育相談 ミネルヴァ書房 ISBN : 978-4-623-08178-3

参考書・参考資料等

授業で紹介する。

学生に対する評価

1. 授業中の態度・発表・グループワークへの参加度等の平常点（20%）
 - ・ 受講態度授業中マナー違反等はマイナス評価を与える。
2. 課題の提出状況（20%）
 - ・ 課題（小テスト・レポート・アンケート等）の提出状況等。
3. 小テストやレポート課題提出物等（アンケートを含む）の評点（60%）
 - ・ レポート課題や小テストは、その時間に呈示する課題および授業内容の理解・確認のための振り返りを目的とするものである。レポート課題の解説等は授業内で適宜行う。
 - ・ 適宜 CEAS（授業支援ソフト）等を活用し授業を展開する。
 - ・ ※ 1～3を合わせた総合評価で成績を付ける。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (中・高)		単位数：2単位		担当教員名：林田 大作（教科担当） 村田 浩子（教職担当）	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 1クラス 20 人					
教員の連携・協力体制 当該教職課程の科目担当教員が協力して行う。					
授業のテーマ及び到達目標 自らの教育実践力を客観的かつ具体的に評価し、改善するためのセルフマネジメント力を身に付ける。その上で、学習指導案の作成や授業スキルの習得、ICTの効果的な活用方法、生徒理解と学級経営力、社会性や対人関係能力、教員としての使命感や責任感などの資質や能力について、不足するものを補完するとともに、教育実践力の統合と深化をはかる。					
授業の概要 大学4年間で学んだ知識と技能そして教育実習等で得られた実践的指導力について、履修カルテを活用して振り返り、その理解度を把握する。その上で、各自の課題を克服するための活動に取り組む。また、多様な教育現場を経験した教職経験者により授業を実施するとともに、現職教員による講義を取り入れることで、教育現場における今日的課題に気づき、その解決のための方法について討議する。さらに、ロールプレイングやグループワークなどを行い、学習した内容について、学習知から実践知への移行を図る。また、実践的な学習指導力の向上に向けて、模擬授業の企画や実施後の討議を重視し、ICTを活用した授業構成の検討を行う等、より具体的な授業実践の方法について学ぶ。 なお、上記授業において教科担当の林田は教育現場での実践的スキルの概説を、教職担当の村田は、現代の教育課題の特定と解決についての指導を担当する。					
授業計画 第1回 オリエンテーション、履修カルテによる振り返りと自己課題の発見（グループワーク） 第2回 生徒指導に関する事例研究 第3回 ワークショップ1による今日的教育課題の認識（主担当：林田） 第4回 ワークショップ2による今日的教育課題の認識（主担当：林田） 第5回 ワークショップ3による今日的教育課題の認識（主担当：林田） ※ワークショップを通じた今日的教育課題の認識」または「現代の教育の問題点を分析するためのワークショップを提供する。 第6回 学校現場の現状と取り組みを学ぶ（学校教員を交えた意見交流） 第7回 集団討議による今日的教育課題の解決法の模索、ICTの効果的な活用による授業改善と課題の検討 第8回 生徒や保護者に信頼される教師像（教育委員会指導主事による講義） 第9回 自分が目指す学級経営（意見発表） 第10回 生徒の学びをつくる発問と板書の具体的実践（学校教員による実践発表及び演習） 第11回 授業設計と模擬授業Ⅰ（授業研究テーマの設定）（主担当：村田） 第12回 授業設計と模擬授業Ⅱ（授業構想についての研究討議）（主担当：村田）					

第13回 授業設計と模擬授業Ⅲ（授業展開の発表）（主担当：村田）
第14回 授業設計と模擬授業Ⅳ（模擬授業）（主担当：村田） ※授業設計と模擬授業の指導」または「授業の構想、設計そして実践的な模擬授業によって理論を実践に移す過程を指導する。
第15回 大学4年間の成長や変容と10年後の在りたい自分（プレゼンテーション）
テキスト
特になし
参考書・参考資料等
授業中に示す
学生に対する評価
授業時の発表内容や、作成した授業案の内容70%。授業に臨む姿勢や準備30%

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。